

**わずか1ヶ月で実感!**

**「関節痛がずいぶんと和らいで楽になりました」**

「関節が痛く、指とか膝とかもそうですが、また下半身が凄くむくみやすかったのですけれど、これで横になって眠ったりすると、使う前に比べて関節痛がずいぶんと和らいで楽になっているという実感がありますね」

『メディカルマット』を使い始めてからわずか一ヶ月。美希さんは確かな手応えを感じていると言います。『メディカルマット』と出会ったのは、(株)MOZUが配った1枚のチラシでした。

彼女が体調不良を感じて訪れた病院で、専門医が診断した病気の対策に「遠赤外線マットを使うといいですよというアドバイスをいただいたので購入した」のが使用する動機でした。

正確には、「最初はサウナ療法を勧められたのです。でも家庭で使うのはなかなか難しいので代用として遠赤外線マットを使うことにした」というのが、使用に至る経緯でした。

医師が下した診断結果は「慢性疲労症候群」という病名でした。これまで健康に生活していた人が、ある日突然原因不明の激しい全身倦怠感に襲われ、それ以降に強度の疲労感と共に、微熱、頭痛、筋肉痛、脱力感や、思考力の障害、抑うつ等の精神神経症が長期間続く「悩ましい病気」です。

「悩ましい病気」という理由は、この病気は通常クリニックの医師では的確な病名診断が特定できない点です。この病気に対する深刻な病理的な症状を理

解している病院が少ないのです。事実、日本では長年にわたり神経症性障害に分類され、ともすれば神経疾患と認識されてきた病気なのです。

そうこうしている間に、「全身がけだるくて疲れやすくなり、どんどん体が痩せてしまった」のです。「いろんな病院にかかっても鬱病の扱いをされてしまいました」というのです。

たまたま「ある呼吸器内科の先生が慢性疲労症候群を知っていらして、診療できる病院を探した」のだと言います。「しかし、どこにもありませんでした」。

思い余った美希さんは「患者会に電話をし、都内にある先生を紹介していただいて、そこで診断を受けてはじめて病名が確定したという流れ」を経ているのです。8年前のことでした。慢性疲労症候群と確定されるまでには長い時間と苦労があったのです。

ちなみに、患者会とは、同じ病気や障害、症状など何らかの共通する患者体験を持つ人が集まり自主的に運営する会のことです。

「特効薬とか緩和する療法はないので、やっているのは基本的には痛みをペインコントロールする痛み止めぐらいです」

ようやく病名は確定されたものの慢性疲労症候群には、まだ現代医療においては有効な治療法が確定されていません。一般的な治療方法としては、薬物療法と非薬物療法があります。

医師が、美希さんにサウナ療法や遠赤外線マットを勧めたのは、これらが温熱療法に役立つからです。

遠赤外線には新陳代謝を促し、筋肉の緊張をほぐして血流を良くし免疫力を高める効果が期待されます。

「暑いという感覚はありませんが、呼吸器系がちょっと疾患をもっているのです。その関係かどうかは分かりませんが、寝汗をかくようになりましたがとても気持ちよく寝かせていただいています」

ただ「ひとつ私には難点があります。それは少し硬いこと」だと言います。『メディカルマット』と厚さと下との「段差のところに体重がかかると、繊維筋痛症のせいかそこで筋肉に圧がかかり痛い」と言うのだ。実は美希さんは、慢性疲労症候群に加えては繊維筋痛症という病気を抱えています。

繊維筋痛症とは、一般的な検査をしても原因が見つからないにもかかわらず、全身の強い痛みやこわばり、睡眠障害などさまざまな症状が生じる病気です。

いまは「段差のところに薄い低反発マットをふたつ敷いて使って、なるべく筋肉に圧がかからないように使っています」と、明るく笑いながら「知っている方にもお勧めしようかと思っています」と話してくれました。病苦に悩む人たちの間で『メディカルマット』の普及の輪が広がればこんな嬉しいことはありません。

**遠赤王商品紹介**



メディカルマット 148,000円(税別)  
サイズ:90×55cm / 消費電力:90w / 重さ:1.5kg

■ 使用例



遠赤王シリーズの中で、唯一医師からの依頼で開発されたマットタイプの遠赤外線温熱機器。足先が冷えているという自覚症状をお持ちの方におすすめです。効率的にからだ全体の血の流れをよくしてくれます。